

## 関係団体の意見と対応

【平成21年度連携排砂計画及び平成21年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>① 今後の宇奈月ダムの堆砂形状を踏まえ、漁場環境や漁業へ影響がより少ない排砂方法を検討してほしい。具体的には通砂基準の引き下げによる複数回排砂の検討をお願いしたい。</p>	<p>① 平成21年1月19日に開催された第31回黒部川ダム排砂評価委員会において、「今年度の連携排砂・通砂は、6月29日から7月2日にかけて実施された連携排砂1回のみであり、連携通砂については、7月、8月に発生した短時間集中豪雨により、連携試験通砂基準流量を超えるも、短時間でダムへの流入量が中止基準流量を下回ったため実施できなかった。出し平ダムからの目標排砂量は約32万<math>m^3</math>に対し実績排砂量が約35万<math>m^3</math>となり、排砂前に設けた想定変動範囲の約27万<math>m^3</math>から約36万<math>m^3</math>の内に収まる結果となった。水質、底質および生物相の環境調査結果をみる限り、連携排砂による一時的な環境の変化はあるものの、大きな影響を及ぼしたとは考えられない。」との評価をいただいている。また、今後の連携排砂および連携通砂の方法については以下のご意見をいただいている。</p> <p>○試験通砂については、近年の短時間集中豪雨等の出水の特徴を踏まえ、実施方法について引き続き検討を進めるとともに、</p>

【平成21年度連携排砂計画及び平成21年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体		<p>より効果的な通砂方法についても検討を進めること。                      ○排砂後・通砂後の措置の試行については、その効果を把握するよう努めること。</p> <p>評価委員会のご意見を踏まえ本年度は、今後の通砂基準の見直しの検討資料として、通砂基準を引き下げた試験通砂を昨年度に引き続き実施する一方で、新たに短時間集中豪雨対策を実施し、その効果把握に努め、平成22年度計画に反映させる計画である。</p>

【平成 2 1 年度連携排砂計画及び平成 2 1 年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>② 流木による漁業への影響が顕著になりつつある中、排砂実施機関においても、対応案について検討願いたい。</p> <p>③ 出し平ダムの上流域に堆積している土砂に対する総合的な対策を具体的に検討して欲しい。</p>	<p>② これまでも出し平ダム及び宇奈月ダムのダム湖に出・洪水時に流入してくる流木については、排砂期間中の排砂及び通砂に至らない出水後に流木を回収している。 また、出・洪水時に河道内に堆積した流木については、従来から次回の出・洪水時に下流に流出し、被害を及ぼすことが想定されることから河道内に堆積した流木の回収を積極的に行っており、今後も上流からダム湖内に流入し浮遊する流木及び河川管理上支障のある河道内に堆積した流木の回収に引き続き努めて参りたい。</p> <p>③ 黒部川上流域については、崩壊箇所が約 7,000 箇所、その流域面積に対する比率はおよそ 5 %にも達し、豪雨時には崩壊した多量の土砂が川に流れ込む状況です。それらの状況に対し、上流域において砂防堰堤工事等を進めており、今後とも総合的な土砂管理を行うべくこれらの事業を鋭意実施して参りたい。</p>

【平成21年度連携排砂計画及び平成21年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	<p>④ 連携排砂でダムから流出した土砂量や海に流入した土砂量の把握に今後とも努めて欲しい。</p>	<p>④ 土砂収支について一定の精度を持ったシミュレーションを行うにあたっては、シミュレーションの入力条件及びシミュレーション結果と排砂中及び洪水時の土砂モニタリングによる実測値との検証が重要であるが、現在の技術では洪水時の観測が困難な状況にある。</p> <p>このように土砂動態の測定技術の飛躍的な向上は難しいものではあるが、土砂動態把握のため、平成16年以降、排砂期間前の5月にダム貯水池測量を実施しており、また、より土砂動態を詳細に把握すべく、平成18年度からは通砂後と9月にも新たに貯水池測量を実施している。</p> <p>また、黒部川河口より海へと流出した土砂量および土砂の質、海での拡散状況を把握するため、排砂・通砂実施時のへりによる空撮、海域での採水等を実施しているところであり更なる精度向上に向けて調査検討をして参りたい。</p>

【平成21年度連携排砂計画及び平成21年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
海面漁業関係団体	⑤ 排砂と魚の生息への影響に対する因果関係について、今後も調査地点、方法を含め検討して欲しい。	⑤ これまで専門家の指導ならびに海面漁業関係団体と相談しながら、魚の生息環境の変化を把握するため、水質、底質、マクロベントス、プランクトンの調査を行ってきたところである。 本年度も環境調査計画に基づく底質調査を予定しており、今後も魚の生息への影響に対する調査については、専門家の指導ならびに海面漁業関係団体と相談しながら調査して参りたい。

【平成21年度連携排砂計画及び平成21年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
内水面漁業関係団体	<p>① 全国唯一の排砂ダムを有する黒部川においては、魚族生息に与える影響は計り知れないものがあり、特にアユ等の生息環境の影響について危惧しているところである。</p> <p>内水面漁協としても、これら魚族の生息環境状況の改善策を講じたいと考えており、今後の魚類調査にあたっては、内水面漁協とも協議をしながら実施されたい。</p>	<p>① 実施機関としては、黒部川の河川環境へ与える影響を軽減できるような排砂方法の検討に努めるとともに、黒部川及び出し平・宇奈月両ダムにおける排砂前後の環境状況を把握すべく、定期的かつ排砂期間中の排砂環境影響調査を行っており、魚類採捕調査においては、これまで専門家の指導なごらびに内水面漁協の方々にご協力頂きながら、実施してきているところである。</p> <p>平成21年度においても、連携排砂に伴う環境調査計画に基づく排砂環境調査として、魚類採捕調査、土砂堆積調査、水生生物調査を実施する予定であり、今後も魚類の生息環境への影響に対する調査については、専門家の指導なごらびに内水面漁協の方々からご協力を頂きながら実施して参りたい。</p>

【平成21年度連携排砂計画及び平成21年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
<p>農業関係団体</p>	<p>① 出し平・宇奈月ダムの連携排砂の必要性と処置方法を、地域住民により深く周知され、理解と協力が得られるよう、常に関係市町村と連携を深めながら鋭意努力願いたい。</p> <p>② 出し平・宇奈月ダムの連携排砂時の合口用水路の取水停止と、豪雨時の危険水位による愛本堰堤取水停止の区別が下流域住民に周知できるような方法と対応を願いたい。</p>	<p>① 連携排砂実施機関としては、これまでも投書、来所者に対してはもとより、勉強会・説明会等の要望があればそれに応じるなど、関係市町のご協力を得ながら、様々な形で理解と協力が得られるように努めてきたところである。 今後とも、連携排砂、通砂について、地元自治体等とも相談しながら理解いただけるように努めて参りたい。</p> <p>② これまでも排砂期間前、連携排砂実施中、排砂評価委員会および土砂管理協議会開催時等機会あるごとに自治体広報誌への折り込みや記者発表、事務所ホームページへの掲載等により広報に努めてきたところである。 また、連携排砂・通砂の実施中には、みらいテレビ行政コミュニティチャンネル（5ch）にて情報提供を行っている。 今後とも、連携排砂、通砂や取水停止期間の考え方等についても、よりご理解いただけるよう地元自治体等とも相談しながらさらに適切な広報に努めて参りたい。</p>

【平成 2 1 年度連携排砂計画及び平成 2 1 年度連携排砂計画に伴う環境調査計画について】

関係団体名	関係団体の意見	対応状況
農業関係団体	<p>③ 天候の状態や農作業の時期的な影響を考慮し、連携排砂、連携通砂、豪雨時の停止と合口用水路の取水停止が連続し長期化しないような実施方法を検討願いたい。</p> <p>④ 農業関係団体において、4月から9月が農業用水の最も大切な灌漑期であり、農家の協力と理解が不可欠であることを十分認識願いたい。</p>	<p>③及び④ 排砂は、環境への影響を小さくするため、土砂変質を防止し、できるだけ自然の土砂流に近い形で排砂を行うことが必要であり、毎年排砂を確実に実施することが重要と考えている。</p> <p>通砂は排砂後の一定規模以上の出洪水発生時に洪水に伴い流入する土砂を貯水池内に貯めないで通過させるものであり、翌年度に行う排砂時の排砂量を減らし、環境に与える影響を低減させるとの観点から必要なものと考えている。</p> <p>排砂・通砂実施について今後ともご理解願いたい。</p> <p>また、平成 17 年度からは、黒部川沿岸土地改良区連合と調整し、特に長時間の断水が水稻の生育に影響を及ぼすと考えられる期間に排砂を実施する場合は、夜間においても取水再開が出来るよう河川の濁り状況で取水再開を判断できる様に基準を設け、取水停止時間の短縮を図ること等を計画した。</p> <p>今後とも、取水停止時間の短縮に向けた検討をして参りたい。</p>